

# 総合型地域スポーツクラブ設立のための住民調査

## —愛媛県上浮穴郡久万町の場合—

堺 賢治 ・ 藤原 誠 ・ 山本 孔一

(保健体育研究室)

(愛媛女子短期大学)

### A survey for establishing comprehensive community sports clubs — The case of kuma-cho, kamiukena-gun, ehime —

Kenji SAKAI, Makoto FUJIWARA, Koichi YAMAMOTO

#### I. 序 論

いま日本は危機をむかえている。少子高齢化社会は将来に不安を与えている。1990年代に始まったといわれている失われた10年、終身雇用制や年功序列制に代表される日本型システムの崩壊が始まり、アメリカ型の競争社会になりつつある。このような流れの中で、高齢者は年金問題や健康問題をかかえ、自分を支える地域がないため将来が不安になり金を使わない。その結果、消費が伸びず、なかなか経済が回復しない状況である。また、子どもたちに目を向けると、地域共同体の崩壊がもたらしたといわれる学級崩壊、いじめ、登校拒否などの教育問題が深刻化している。さらに、スポーツ場面においては、体力・運動能力の低下、体育の時間の減少、異年齢の遊び集団の消滅など子どもをとりまく生活環境においても危機的な状況にある。このように日本社会はいま行き詰まりの状態にある。この社会の閉塞感を打破する一つの糸口として総合型地域スポーツクラブがあげられる。

その中で、文部科学省は、2000年9月に「スポーツ振興基本計画」を制定し、明るく豊かで活力のある社会実現のため、種目の多様性・世代の多様性・レベルの多様性を備えた「総合型地域スポーツクラブ」の育成を促した。この基本計画は、総合型地域スポーツクラブを2010年までに全国の市町村単位約3,000箇所に1つ以上設立することにより、週1回以上の運動実施率を50%以上にすることを目標にしている。

愛媛県では、2001年から3年間、国のモデル事業の指定を受け、総合型地域スポーツクラブの立ち上げや活動

を支援するための組織である「えひめ広域スポーツセンター」を愛媛県スポーツ振興事業団内に設置した。そして、市町村に総合型地域スポーツクラブづくりを呼びかけた。その結果、愛媛県上浮穴郡久万町<sup>(注1)</sup>が名乗りをあげた。

本研究では、久万町に総合型地域スポーツクラブを設立するために、第一に、住民のスポーツ活動の実態やニーズを把握し、第二に、住民のニーズを生かした総合型地域スポーツクラブ設立のための資料を得ることを目的にした。

(注1) 久万町は愛媛県松山市の南東部に位置し、面積164.92kmの町である。人口は2003年現在、7,403人であり、65歳以上の高齢化率は34.9%である。また、産業別人口比については、第一次産業29.8%、第二次産業22.0%、第三次産業48.2%である。

#### II. 調査方法

(1)調査対象：久万町に在住する20歳以上70歳未満の住民1200名

(2)調査時期：2002年10月中旬～下旬

(3)調査方法：質問紙による郵送調査

(4)回収率：有効回収数 633部 有効回収率 52.8%

(5)分析の視点

①性別：男性 (N=286 45.2%)

女性 (N=347 54.8%)

②クラブ加入意欲

久万町住民の、総合型地域スポーツクラブへの加入意欲によって分類した。(表1)「加入したい」と回答した人を積極群とし、「加入したくない」と回答した人を消極群とした。表1によると、「加入したい」と「誘われれば加入したい」をあわせると、約6割の人が加入意欲を持っている。

表1 クラブ加入意欲

項目	N	%	
加入したい	107	16.9	積極群
誘われれば加入したい	269	42.5	
あまり加入したくない	172	27.2	
加入したくない	68	10.7	消極群
無回答	17	2.7	

### Ⅲ、結果及び考察

#### 1. 年齢

表2は年齢をあらわしたものである。全体では、60歳代が29.9%と最も多く、次いで、50歳代の26.5%、40歳代の22.1%と続いており、農村特有の中高齢化現象が起こっていることがわかる。性別ではあまり差はみられない。

表2 年齢 (%)

項目	男性	女性	積極群	消極群	全体
20歳代	8.4	6.3	7.5	1.5	7.3
30歳代	14.7	13.8	11.2	8.8	14.2
40歳代	22.4	21.9	14.0	29.4	22.1
50歳代	26.9	26.2	30.8	32.4	26.5
60歳代	27.6	31.8	36.5	27.9	29.9

加入意欲別では、積極群は60歳代、消極群は40歳代が多い傾向がみられるがあまり差はみられない。

#### 2. スポーツ活動

##### (1)種目

表3は過去1年間に行ったスポーツ種目について示したものである。全体では、「バレー・レクバレー」が25.4%と最も多くなっており、次いで、「散歩・ウォーキング」の24.5%、「軽い体操」の10.4%、「野球・ソフトボール」の8.8%、「ゴルフ」の7.6%となっている。

バレーボールや野球といった多人数で行う球技や、散歩や体操といった個人的に行う気軽なスポーツが多い。性別で比較すると、男性では「野球・ソフトボール」や「ゴルフ」が多く、女性では「バレー・レクバレー」や「散歩・ウォーキング」が多い。

表3 種目

(%)

項目	男性	女性	積極群	消極群	全体
バレー・レクバレー	18.5	31.1	38.3	11.8	25.4
散歩・ウォーキング	17.1	30.5	26.2	22.1	24.5
軽い体操	7.3	13.0	11.2	5.9	10.4
野球・ソフトボール	18.2	1.2	14.0	7.4	8.8
ゴルフ	15.0	1.4	9.3	7.4	7.6
ハイキング	5.9	4.9	2.8	4.4	5.4
ボウリング	6.3	3.7	6.5	2.9	4.9
卓球	4.2	5.5	5.6	2.9	4.9
ジョギング	6.6	3.2	6.5	4.4	4.7
スキー・スノーボード	6.3	1.7	3.7	0.0	3.8
その他	18.7	11.1	21.0	6.0	14.4
無回答	0.0	0.3	0.0	0.0	0.2

(2つまで○印)

加入意欲別では、ほとんどの種目において、積極群の人がより多くのスポーツ活動を実施しており、特に「バレー・レクバレー」では38.3%を占めている。

##### (2)頻度

表4は過去1年間のスポーツ実施頻度を示したものである。全体では、週1回以上定期的にスポーツを行っている人は28.9%であり、愛媛県の調査(2001年実施)<sup>1)</sup>と比べると、愛媛県では、27.6%であり、ほとんど同じ割合となっている。性別で比較すると、週1回以上スポーツを行っている人は、男性が25.9%、女性が31.4%であり、女性の方が多くなっている。しかし、「行っていない」と回答した人は、男性が26.9%、女性が36.3%である。このことから、女性では二極化が起こっていると

表4 頻度

(%)

項目	男性	女性	積極群	消極群	全体
週に3回以上	8.4	9.2	17.8	7.4	8.8
週に1~2回	17.5	22.2	30.8	10.3	20.1
月に1~2回	17.8	11.8	19.6	8.8	14.5
年に数回	29.1	20.2	18.7	20.6	24.2
行っていない	26.9	36.3	13.1	52.9	32.1
無回答	0.3	0.3	0.0	0.0	0.3

いえる。

加入意欲別では、週1回以上スポーツを行っている人は、積極群では48.6%、消極群では17.7%であり、総合型地域スポーツクラブの加入に対して積極的であるほど、日頃から定期的にスポーツを行っているといえる。

### (3)施設

表5は過去1年間のスポーツ実施場所についてあらわしたものである。全体では、「公共のスポーツ施設」が26.9%、「学校の体育施設」が24.5%と多くなっており、過去1年間のスポーツ実施種目で多い「バレー・レクバレー」や「野球・ソフトボール」の場所になっているものと思われる。また、運動会や球技大会といったスポーツイベントの場所として利用した人が多いものと考えられる。次に、身近な場所である「道路」が17.7%と多くなっており、過去のスポーツ実施種目で多かった「散歩・ウォーキング」や「軽い体操」などの場所であると考えられる。性別で比較すると、身近な場所である「道路」と答えている人は、男性が15.7%、女性が20.5%であり、女性の方が身近な場所でスポーツを行っていることがわかる。一方、「商業スポーツ施設」の場合、男性が15.7%、女性が4.6%であり、男性の方が商業スポーツである「ゴルフ」や「スキー・スノーボード」をよく行っているからであろう。

表5 施設

項目	(%)				
	男性	女性	積極群	消極群	全体
公共のスポーツ施設	28.3	25.6	41.4	14.7	26.9
学校の体育施設	24.5	24.5	37.4	8.8	24.5
道路	14.3	20.5	23.4	13.2	17.7
野外(海・川・山)	12.2	7.8	8.4	7.4	9.8
商業のスポーツ施設	15.7	4.6	15.9	5.9	9.6
公園・空き地	10.5	6.6	9.3	7.4	8.4
自宅	6.3	9.5	5.6	4.4	8.1
職場のスポーツ施設	3.1	0.3	1.9	1.5	1.6
その他	1.4	2.9	3.7	2.9	2.2
無回答	2.8	3.7	1.9	7.4	3.3

(2つまで〇印)

加入意欲別では、どのスポーツ施設も積極群の方が多く、特に「公共のスポーツ施設」と「学校の体育施設」については積極群の人が多く利用している。

### (4)クラブ加入

表6は過去1年間のスポーツクラブ加入の有無と形態

について示したものである。全体では、スポーツクラブに加入している人は36.5%であり、愛媛県の調査(2001年)に比べると、愛媛県では29.1%であり、クラブ加入率は高いが、定期的なスポーツ実施率はそれほど高くない。性別に比較すると、男性は39.9%、女性は33.7%であり、男性の方がクラブ加入率が高い傾向がみられる。形態においては、男性の方が「体育協会のクラブ」や「職場や仕事の関係でつくったクラブ」に多く加入している。

表6 クラブ加入

(%)

項目	男性	女性	積極群	消極群	全体
仲間で作ったクラブ	18.2	18.2	23.4	11.8	18.2
レクリエーション協会のクラブ	7.7	8.4	18.7	2.9	8.1
体育協会のクラブ	11.2	2.6	13.1	4.4	6.5
職場や仕事の関係で作ったクラブ	9.4	2.6	11.2	2.9	5.7
その他	3.1	2.6	6.5	0.0	2.8
加入していなかった	60.1	66.3	39.3	79.4	63.5

(あてはまるものを全て〇印)

加入意欲別では、スポーツクラブに加入している人は積極群が60.7%、消極群が20.6%となっており、総合型地域スポーツクラブ加入に対して積極的であるほどスポーツクラブに加入している人が多い。

### (5)今後のスポーツ活動

表7は今後行ってみたいスポーツ種目についてあらわしたものである。全体では、「散歩・ウォーキング」が26.5%と最も多く、次いで、「軽い体操」の17.4%、「バレー・レクバレー」の15.5%、「ハイキング」の13.1%、「水泳」の11.5%、「卓球」の11.4%、「ゴルフ」の10.7%と続いている。過去1年間のスポーツ実施種目と比べると、上位3種目は同じであり、現在行っているスポーツを今後も継続して行おうとする人が多いといえる。また、集団で行うスポーツから「ハイキング」「水泳」「卓球」「ゴルフ」などの個人で行うスポーツに対するニーズも高くなっている<sup>2)</sup>。注目すべきは、総合型地域スポーツクラブでは「ニュースポーツ」といわれているが、「ニュースポーツ」へのニーズはあまりみられない。ドイツのスポーツクラブでは「ニュースポーツ」はほとんどなく既存のスポーツが実施されており、総合型地域スポーツクラブづくりをするときには「ニュースポ

ーツ」万能主義を捨てなければならない。性別で比較すると、男性では「野球・ソフトボール」「スキー・スノーボード」「ゴルフ」、女性では「バレー・レクバレー」「軽い体操」「散歩・ウォーキング」に対するニーズが高い。

表7 今後のスポーツ活動 (%)

項目	男性	女性	積極群	消極群	全体
散歩・ウォーキング	19.6	32.3	18.7	29.4	26.5
軽い体操	11.9	21.9	12.1	22.1	17.4
バレー・レクバレー	10.8	19.3	25.2	7.4	15.5
ハイキング	12.2	13.8	15.0	5.9	13.1
水泳	8.0	14.4	18.7	5.9	11.5
卓球	9.1	13.3	11.2	5.9	11.4
ゴルフ	18.5	4.3	12.1	7.4	10.7
ボウリング	10.1	8.9	12.1	5.9	9.5
テニス	8.7	7.8	9.3	1.5	8.2
スキー・スノーボード	13.3	3.7	8.4	0.0	8.1
野球・ソフトボール	14.4	1.7	7.5	7.4	7.3
その他	32.4	28.8	39.1	17.7	30.5
行いたくない	6.6	4.6	0.9	27.9	5.5
無回答	0.7	1.4	0.9	1.5	1.1

(2つまで○印)

加入意欲別にみると、積極群では「バレー・レクバレー」「散歩・ウォーキング」「水泳」「軽い体操」「ゴルフ」「ボウリング」「卓球」などが多くなっており、ニーズの多様化がわかる。一方、消極群は「散歩・ウォーキング」と「軽い体操」が多く、いわゆるスポーツ種目に対するニーズは低い。この結果から、総合型地域スポーツクラブづくりにあたっては、まず、積極群のニーズに合わせた教室をつくり、軌道に乗った後、消極群のニーズに答えることが必要であろう。

### 3. 総合型地域スポーツクラブ

#### (1)クラブへの理解度

この調査では総合型地域スポーツクラブについて説明したパンフレットを調査票に同封し配布した。それを読み、総合型地域スポーツクラブが理解できたかをたずねたものが表8である。全体では、「よくわかった」「だいたいわかった」と答えている人は、71.4%であり、約7割の人が理解できているといえる。このことから、総合型地域スポーツクラブについて説明したパンフレットが

住民にとってわかりやすいものであったといえる。性別では差はみられなかった。

表8 クラブへの理解度 (%)

項目	男性	女性	積極群	消極群	全体
よくわかった	7.3	4.3	14.0	2.9	5.7
だいたいわかった	62.0	68.8	67.3	54.4	65.7
あまりよくわからなかった	21.3	21.1	13.1	25.0	21.2
わからなかった	7.7	4.6	4.7	16.2	6.0
無回答	1.7	1.2	0.9	1.5	1.4

加入意欲別に比べると、「よくわかった」「だいたいわかった」と回答している人は、積極群が81.3%、消極群が57.3%であり、加入に積極的な人ほど理解している人が多くなっている。

#### (2)会費を支払う条件

表9は会費を支払う条件について示したものである。全体では、「一緒に活動する仲間」が46.6%と最も多くなっており、次いで、「健康チェックや管理システムの享受」の30.2%、「好みの活動(種目)の開催」の29.7%、「夜間のスポーツ施設利用」の28.0%、「施設の利用料金が割引」の26.1%、「親身になってくれる指導者の常駐」の20.2%、「レベル別のプログラム」の16.1%、「簡単な活動情報の入手」の13.4%、「多世代の仲間との交流」の11.1%となっており、多種多様であることがわかる。性別で比較すると、「一緒に活動する仲間」と答えている人は、男性が39.5%、女性が52.2%であり、女性の方が多くなっている。また、「親身になってくれる指導者の常駐」と答えている人も、男性が16.1%、女性が23.6%であり、女性の方が多くなっている。

表9 会費を支払う条件 (%)

項目	男性	女性	積極群	消極群	全体
一緒に活動する仲間	39.5	52.2	57.9	16.2	46.6
健康チェックや管理システムの享受	31.5	29.1	34.6	19.1	30.2
好みの活動(種目)の開催	31.5	28.2	29.0	23.5	29.7
夜間の施設利用	29.4	26.8	46.5	11.8	28.0
施設の利用料金が割引	24.1	27.7	26.2	10.3	26.1
親身になってくれる指導者の常駐	16.1	23.6	30.8	7.4	20.2
レベル別のプログラム	14.0	17.9	16.8	5.9	16.1
簡単な活動情報の入手	12.6	14.1	11.2	7.4	13.4
多世代の仲間との交流	13.6	8.9	17.8	5.9	11.1
その他	22.0	22.4	21.5	23.5	22.3

(あてはまるもの全て○印)

加入意欲別にみると、どの項目においても積極群の人がよく答えており、多様なニーズを持っていると思われる。その中でも特に差がみられた項目は、「一緒に活動する仲間」「夜間のスポーツ施設の利用」「親身になってくれる指導者」「好みの活動（種目）の開催」「施設の利用料金が割引」である。

### (3)支払ってもよい会費

表10は町に総合型地域スポーツクラブが設立されたとき、どのくらいの年会費なら支払ってよいかをたずねたものである。全体では、「3,000円以上～5,000円未満」と「2,000円以上～3,000円未満」が20.7%と多く、次いで、「1,000円未満」の18.6%である。この結果から、会費の設定としては「2,000円以上～5,000円未満」の間で設定することがよいと思われる。性別で比較すると、5,000円以上支払ってよいという人は、男性が24.1%、女性が13.3%であり、男性の方がスポーツに金を支払ってよいという積極的な意識を持っているといえる。

加入意欲別に比べると、5,000円以上支払ってよいという人は、積極群が40.3%であるのに対し、消極群はわずか7.4%であり、積極群の人ほどスポーツに金を払ってもよいという人が多い。

表10 支払ってもよい会費 (%)

	男性	女性	積極群	消極群	全体
10,000円以上	3.1	0.0	4.7	0.0	1.4
5,000円以上～10,000円未満	21.0	13.3	35.6	7.4	16.8
3,000円以上～5,000円未満	19.2	21.9	25.1	7.4	20.7
2,000円以上～3,000円未満	20.3	21.0	16.8	11.8	20.7
1,000円以上～2,000円未満	13.3	18.7	10.3	14.7	16.3
1,000円未満	17.5	19.6	7.5	33.7	18.6
無回答	5.6	5.5	0.0	25.0	5.5

### (4)ボランティア・指導者としての参加希望

表11はボランティア・指導者としての参加希望を示したものである。全体では、「参加したい」「誘われれば参加したい」と答えている人は32.9%であり、クラブ加入意

表11 ボランティア・指導者としての参加希望 (%)

項目	男性	女性	積極群	消極群	全体
参加したい	7.3	5.8	32.7	0.0	6.5
誘われれば参加したい	28.7	24.5	41.1	2.9	26.4
あまり参加したくない	32.6	33.4	15.0	5.9	33.0
参加したくない	28.3	32.6	10.3	91.2	30.6
無回答	3.1	3.7	0.9	0.0	3.5

欲の割合に比べて低い。性別ではあまり差はみられない。

加入意欲別に比較すると、「参加したい」「誘われれば参加したい」と回答した人は積極群の73.8%に対して、消極群は2.9%であり、加入に積極的な人ほど、ボランティアや指導者として積極的に参加している人が多い。

### (5)クラブへの期待

表12は総合型地域スポーツクラブに対して期待することを示したものである。全体では、「生きがいづくり」が54.3%と最も多く、次いで、「地域（交流）の活性化」の44.2%、「青少年の健全育成」の42.3%、「子どもの遊びの復活」の31.0%と続いている。住民の総合型地域スポーツクラブに期待するものは、青少年の健全育成、高齢者の生きがいづくり、コミュニティづくりが多い。

加入意欲別では、どの項目においても積極群の方が消極群の人よりも期待が高い。特に、「生きがいづくり」「地域（交流）の活性化」「青少年の健全育成」については、大きな差がみられる。

表12 クラブへの期待 (%)

項目	男性	女性	積極群	消極群	全体
生きがいづくり	44.4	62.5	67.3	16.2	54.3
地域（交流）の活性化	49.3	40.1	54.2	19.2	44.2
青少年の健全育成	46.5	39.2	56.1	23.5	42.5
子どもの遊びの復活	33.2	29.1	33.6	11.8	31.0
医療費の削減	13.3	20.2	17.8	10.3	17.1
人口流失の歯止め	18.2	14.4	18.7	7.4	16.1
地域経済力の活性化	16.4	13.5	17.8	5.9	14.8
居場所づくり（クラブハウス）	9.8	18.7	16.8	4.4	14.7
観光地としての復活	12.2	10.4	16.8	4.4	11.2
部活動の強化（一貫指導）	12.9	5.5	15.9	2.9	8.8
その他	3.5	2.0	3.7	8.8	2.7

(あてはまるもの全て○印)

## 4. 地域活動

### (1)スポーツ活動

表13は地域スポーツ行事への参加度について示したものである。全体では、「よく参加している」「ときどき参加している」と答えている人は55.6%であり、半数以上の人が参加している。性別で比べると、「よく参加している」回答した人は、男性25.2%、女性17.6%であり、男性の方が積極的に参加している傾向がみられる。

加入意欲別に比較すると、「よく参加している」「ときどき参加している」と回答している人は、積極群が

表13 スポーツ行事

項目	(%)				
	男性	女性	積極群	消極群	全体
よく参加している	25.2	17.6	35.5	5.9	21.0
ときどき参加している	33.2	35.7	32.7	26.5	34.6
あまり参加していない	20.3	21.9	13.1	19.1	21.2
参加していない	21.3	23.9	18.7	48.5	22.7
無回答	0.0	0.9	0.0	0.0	0.5

68.2%、消極群が32.4%であり、加入に積極的な人ほど地域スポーツ行事によく参加している。

(2)趣味・学習活動

表14は地域の人々と一緒に趣味・学習活動にどの程度取り組んでいるのかをたずねたものである。全体では、「積極的に取り組んでいる」「まあまあ取り組んでいる」と答えている人は39.6%となっており、地域スポーツ行事参加度に比べて低いといえる。性別では差はみられなかった。

加入意欲別に比較すると、「積極的に取り組んでいる」「まあまあ積極的に取り組んでいる」と回答した人は、積極群が59.8%、消極群が17.6%であり、加入に積極的な人ほど地域での趣味・学習活動によく参加している。

表14 趣味・学習活動

項目	(%)				
	男性	女性	積極群	消極群	全体
積極的に取り組んでいる	6.3	5.8	17.8	0.0	6.0
まあまあ積極的に取り組んでいる	35.3	32.3	42.0	17.6	33.6
あまり取り組んでいない	35.3	35.9	23.4	29.4	35.7
まったく取り組んでいない	22.8	25.4	15.9	53.0	24.2
無回答	0.3	0.6	0.9	0.0	0.5

(3)地域連帯感の変化

表15は10～20年前とくらべて地域の連帯感がどのように変化したのかをたずねたものである。全体では、「地域の結びつきが浅くなった」と答えた人は、56.9%も存在し、地域内での交流が少なくなっている。性別では差はみられない。

表15 地域連帯感の変化

項目	(%)				
	男性	女性	積極群	消極群	全体
地域の結びつきが深くなった	8.7	8.1	12.1	2.9	8.4
地域の結びつきが浅くなった	60.2	54.2	61.7	44.1	56.9
変わらない	29.0	31.4	24.3	45.6	30.3
無回答	2.1	6.3	1.9	7.4	4.4

加入意欲別に比較すると、「地域の結びつきが浅くなった」と答えた人は、積極群の61.7%に対し、消極群では44.1%である。加入に対して積極的な人ほど地域の連帯感が浅くなっていると思っている人が多い。この理由として、積極群の人は地域スポーツ行事や趣味・学習活動によく参加し、それによって、地域の変化を敏感に感じ取っているのではないかと推察される。

IV. 結論

- (1)加入に積極的な人ほどスポーツ実施頻度が高く、スポーツクラブによく加入している。そこで、既存のスポーツクラブを核とした総合型地域スポーツクラブづくりを図る必要がある。
- (2)今後行ってみたいスポーツ種目については、過去1年間のスポーツ実施種目と同じ種目の傾向がみられる。特に、積極群においては、ニーズが多様化しており、多くの教室を開設する必要がある。
- (3)支払ってもよい年会費については、「2,000円～5,000円」が多く、積極群ほどより高い会費を払ってもよいと知っている。また、加入の条件として、積極群ほど多くのことを求め、「一緒に活動する仲間」「夜間のスポーツ施設利用」「健康チェックや管理システムの享受」「親身になってくれる指導者」などを指摘している。
- (4)加入に積極的な人は総合型地域スポーツクラブについてよく理解している。また、クラブへの期待として「生きがいづくり」「地域（交流）の活性化」「青少年の健全育成」「子どもの遊びの復活」をあげている。
- (5)加入に積極的な人は地域活動（スポーツ行事、趣味・学習活動）によく参加しており、地域連帯感の変化にも敏感であり、地域を支える人であるといえる。

この調査をもとに、久万町において、2004年3月18日「総合型久万スピリッツクラブ」という名称で総合型地域スポーツクラブが設立された。

参考文献

- 1) 愛媛県(2002)「県民のスポーツに関する世論調査」
- 2) 堺賢治(1996)「スポーツー地域スポーツー」星島一夫、永井頼江編著「生活文化を拓く」啓文社 p.12